

町田市教育委員会  
教育長 坂本修一 殿

令和4年6月1日

中学校歴史教科書に対する請願

町田市の教育行政に関し、日頃格別のご高配を賜り感謝申し上げます。

さて既にご承知の事と存じますが、2001年度検定で中学校の歴史教科書から「慰安婦」の記述が一掃されました。

ところが、2019年度検定版に、20年ぶりで「従軍慰安婦」なる記述の教科書が、合格するという驚くべき事態が起こりました。

その後、高市早苗衆議院議員、有村治子参議院議員、松沢成文参議院議員の国会質問などが相次ぎました。そして日本維新の会の馬場衆議院議員が、「従軍慰安婦」という用語には強制連行されたという意味が込められていると質疑したことに対して、2021年4月27日の閣議で、「従軍慰安婦」は、不適切であり、用いるのであれば「慰安婦」という用語であると閣議決定されました。

かくして、教科書で「従軍慰安婦」という言葉は使えなくなったのですが、高校の教科書では、引用という形で今でもこの用語を載せているところがあります。

どうしてそんな教科書が検定を通るのか、文科省は、国民に対して誠実な義務を果たしていない事が明白です。

ここに「埼玉の教育を考える会通信」を同封します。この中で「慰安婦」を教科書に載せている国は世界中に存在しないと題する、埼玉の教育を考える会に寄せられた、世界に史実を発信する会、会長の茂木弘道氏の論文です。

これまで教育委員会は採択会議で、文科省の検定に合格しているのだからどの教科書を選んでも問題はない、と無責任にも教科書採択の言い訳にしてきました。

しかし、自国を貶める従軍慰安婦を載せた教科書を合格させた文科省の検定自体信頼に足るものではないことが明らかになりました。

教育長が「文科省の検定に合格しているのだからどの教科書を採択しても同じ」と答弁すること自体無責任であるは、明白です。

お読み頂き、今後の教科書採択に生かして頂きたいと、一市民として切に思うものです。

完